

○令和3年度 教育事業

- ①「たびうさぎファミリー～夏～」(R3.8.21 (土))
- ②「たびうさぎファミリー～秋～」(R4.10.2 (土), 10.3 (日))
- ③「たびうさぎファミリー～冬～」(R4.2.5 (土), 2.6 (日))

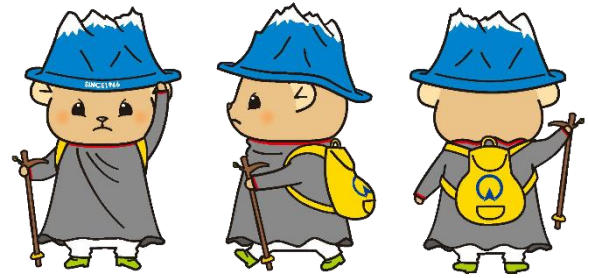
※全て日帰りでの実施

◆目的

自然体験や調理などの活動を通して、自然に親しむことや家族の交流の機会とする

◆参加実績

- ・登録数…151 家族 (R4.3 現在)
- ・各回参加人数
- ①夏編…5 家族 16 名
- ②秋編…8 家族 24 名
- ③冬編…7 家族 23 名



交流の家イメージキャラクター たびうさぎ

◆各回プログラム

① 夏編

【テントを立てよう】

一日の拠点になるテントの外側だけを、家族で協力しながら設営した。

【たき火でホットサンドをつくろう】

たき火を自分たちで起こし、持参した食材を使ってホットサンドを作って食べ、体験と家族のだんらんの場になった。

【植物探しゲーム】

葉の写真をもとに実際の初期物を探し、積んできた葉を画用紙に貼り付けて自分の植物図鑑を作った。身の回りの植物に親しみ、自然に親しむ機会となった。



② 秋編

【ハイキング】(土曜日 2.2 km・日曜日 5.3 km)

参加者に合わせたコースを設定し、「秋を探そう」というテーマをもってハイキングをした。枯葉やキノコを夢中になって探し、保護者も子どもに「これは何だろう」と声かけをするなどの働きかけをしながら一緒に歩く姿が見られた。



③ 冬編

【オリジナル雪だるまをつくろう！】

雪と水を使って大きな雪像をつくり、それに色水で着色したり、飾りつけに枯れ枝などを拾って腕にするなど、家族ごとにオリジナルの作品を作っていた。

【雪で冷やして実験しよう！】

雪で冷やしてチョコレートを固めたり、生クリームを泡立てたりしながら、雪の性質に気づくとともに、家族で協力して活動する姿が見られた。



### 【たべられる雪だるまをつくろう】

ホイップクリームや持参したお菓子などを使ってカップケーキやシュークリームを飾り付けた。家族で相談しながら作ることができ、親子の交流の時間となった。

#### ◆事業運営・企画のポイント

- 昨年同様にコロナ禍であるため、家族同士の交流を減らし、家族内での交流の機会とすることに重点を置き、家族で協力する活動や会話が生まれるような活動を多く取り入れた。
- ただ外に出るだけではなく、五感を使って自然体験ができるように音や触った感触なども意識させられるような活動を行い、声掛けを行った。
- 大雪ならではの活動を念頭に置きながら、多少形を変えて自宅でも実践できそうな活動を設定し、事業後に自分たちでもっとやってみたいと思わせるような仕掛けを意識した

#### ◆参加者の声

- キャンプへの興味が一層わいたようで、次はテントの中に泊ってみたいと言っていました。
- 子どもにとって”探す”ということはとても大切で興味を持つことだとあらためて認識しました。徐々に自然を身近に感じる事ができて楽しかったです。
- 雪だるまはどんなものをつくろうか食べられる雪だるまは、いちごで帽子を作ったらいいね、など、当日までに子どもと話し合いが出来る工程が良かったです。

#### ◆事業の成果と課題

- ① 日帰り日程のため参加しやすいという声がある一方で、宿泊体験を希望される家族がいる。来年度はコロナウイルス感染症の感染状況を見て、対策を取りながら宿泊日程での実施を検討する。
- ② 探したり遊んだり、様々な方法で自然と関わる事ができたが、同じような活動が続くと飽きてくる子どもが見られた。特徴的なものやそれまでなかったものなどを紹介するなど、事前に対応を考えておくことが必要。